

学習指導案の形式（例） 中学校道徳

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連、生徒の実態や指導内容、更に指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。『中学校学習指導要領解説―道徳編―』を参考にする。

第○学年○組 道徳学習指導案

平成○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 主題名 ○○○○○○○○ 内容項目○－（○）

◇原則として年間指導計画における主題名を記述する。主題名から、何を指導するのか、授業の内容が把握できるようにする。
◇内容項目は学習指導要領解説（道徳編）を参考に書く。

2 資料名「○○○○○○○」（出典：○○社「○○○○○○○」） ※補助資料や予備資料があれば付記する。

3 主題設定の理由

◇指導者がねらいとする道徳的価値についてどのように考えているのか、生徒はねらいとする道徳的価値についてどのように学び、現在はどのような状況にあるのか、指導者の思いや願い、生徒の実態を踏まえて資料をどのように活用するのかなど、指導者の道徳の時間の指導観を示す。

- (1) ねらいとする価値について
- (2) 生徒の実態について
- (3) 資料について
- (4) 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

◇ねらいとする価値

- ・ねらいとする内容項目の意義
- ・社会から要請されている今日的課題
- ・内容項目についての指導者の基本的な考え方

◇生徒の実態

- ・ねらいとする内容項目の視点から把握した生徒の道徳性の傾向
- ・今までの学級活動等での指導との関連性
- ・期待する生徒の姿

◇資料

- ・使用する資料の概要や取り上げた意図
- ・その時間での活用のポイント

◇研究主題との関連

- ・研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題を踏まえた指導の具体的な方策
- ・生徒の実態を踏まえた指導の具体的な方策

4 他の教育活動との関連等

◇道徳の時間の指導の効果を高めるために、下記などについて示すことも大切である。

- ・各教科等における道徳教育との関連
- ・道徳的体験活動や日常の個別指導との関連
- ・他の指導者との協力的な指導
- ・家庭や地域との連携
- ・事前指導や事後指導

◇指導者の立場で書く。

5 ねらい

◇資料の特質を生かし、道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度等の道徳的実践力を育成する視点を明確にして、具体的に明記する。

※原則として年間指導計画におけるねらいを記述する。

◇設定に際しては、複数の道徳的価値をねらいとして構成しないよう留意する。

例：（資料・活動等）を通して、（内容項目）しようとする（道徳性の諸様相）を育てる。

◇指導者の立場で書く。

◇展開の流れは一定ではない。主題のねらいや資料の特質、生徒の実態に応じて指導者が工夫していく。

6 展開の概要

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
<p>1 <導入></p> <p>◇導入のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に対する生徒の興味や関心を高める。 ・道徳的価値の自覚に向けての動機付け 	<p>○</p> <p>◇中心的な発問には、◎印などを使って際立たせる。</p>	<p>◇導入の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒作文から類似の体験を想起させる。 ・資料に関する写真、VTR、CD、DVD、新聞記事、実験観察 など
<p>2 <展開></p> <p>(1)</p> <p>◇展開のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的には展開段階を前段と後段に分けて明記する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心的な資料によりねらいとする道徳的価値を追求する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追求した価値を自分自身の問題として捉え直す。 	<p>○</p> <p>◇発問に対する予想される生徒の反応例を書く。</p> <p>○</p> <p>◇発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちに入り込む発問 ・登場人物の弱さやつらさに共感させる発問 ・自分の問題として受け止め、考えさせる発問 ・自分なりのものの見方・考え方をもたせる発問 など <p>◎</p>	<p>◇資料提示の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の読み聞かせの際にBGMを流す。 ・絵画、スライド、VTR、CD、DVDなどの利用 <p>◇留意すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助発問の用意 ・学習方法や形態について例：役割演技 グループ討論 書き込む活動 ・「私たちの道徳」の活用 ・ワークシートの活用 ・板書の工夫 ・机間指導の工夫 など
<p>4 <終末></p> <p>◇終末のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりする。 ・実践への意欲づけ <p>◇生徒の立場で書く。</p>	<p>○</p> <p>◇指導者と生徒の立場で書く。</p>	<p>◇終末の工夫例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者の説話・音楽・黙考・ことわざ・生徒作文 ・補助資料 など <p>◇指導者の立場で書く。</p>

<評価の観点>

◇道徳の時間の評価は、指導のねらいとの関わりにおいて生徒の心の動きの変化などを様々な方法で捉え、それによって自らの指導を評価するとともに、指導方法などの改善に努めることが大切である。

※評価方法例：観察（表情）、発言・つぶやき、ワークシート・ノート、質問紙 など

具体例：

- 生徒がねらいとする価値を自分との関わりで考え、意欲をもって学習に参加していたか。
- 資料の内容は、生徒の実態や主題のねらいに応じた適切なものであったか。